

# ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

coop

90

2019. 4. 30

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の兵庫県内の協同組合組織相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して一協同が息づくまちづくり」を基本理念として、共通行動目標の実践に取り組んでいます。

- 1. 協同組合活動スナップ ..... 1
- 2. 2018年度「虹の仲間づくりカレッジ」を開く ..... 2
- 3. 2018年度兵庫JCC協同組合研究・交流会を開く ..... 4
- 4. 兵庫JCC2019年度活動計画 ..... 5

C  
o  
n  
t  
e  
n  
t  
s

- 5. 今協同組合では一各協同組合からの報告一  
生協/JA（農協） ..... 6
- JF（漁協）/JForest（森林組合） ..... 7
- 6. 協同組合運動に生きる  
山林の課題  
兵庫県森林組合連合会 地籍調査室 技師 時本 惇一 ..... 8

## ● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

### 第14回新春トップセミナー・賀詞交換会



#### 生協

1月5日、兵庫県民会館で、「第14回 新春トップセミナー・賀詞交換会」を開催しました。会員生協・団体の役員と職員（JAをはじめとする協同組合の仲間）53人が参加したセミナーでは、協同組合間連携を通し、持続可能な社会の実現について学びました。

### JA兵庫中央会創立65周年・新中央会発足記念式典を開く



#### JA（農協）

JA兵庫中央会は、3月12日、JA兵庫中央会創立65周年・新中央会発足記念式典を開き、JA役員等27人が参加しました。中央会の65年の歩みを振り返り、新中央会の船出に向けて決意を新たにしました。

### イカナゴ漁解禁！



#### JF（漁協）

ひょうごの春告魚、イカナゴ漁が3月5日に解禁となりましたが、大阪湾では不漁が続いたことから、来年に向けて親となるイカナゴを残すために3日間で終漁となりました。

### 兵庫県林業会館 1F 展示スペースがオープン



#### JForest（森林組合）

林業会館1階の展示スペースにはCLTを活用した建築物を解説するパネルをはじめ、ヒノキやクスノキなどを使った丸イス、木製遊具や木の玉プールなどを展示しています。お近くに来られた際はぜひご来場ください。

#### ●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）  
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives  
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

#### ●兵庫 JCC 事務局

兵庫県生活協同組合連合会	TEL(078) 391-8634
兵庫県農業協同組合中央会	TEL(078) 333-5870
兵庫県漁業協同組合連合会	TEL(078) 940-8013
兵庫県森林組合連合会	TEL(078) 381-5425

# 2018年度 「虹の仲間づくりカレッジ」を開く

兵庫 JCC は、生活協同組合コープこうべとの共催で2018年度「虹の仲間づくりカレッジ」を全3回の講座で開催し、各協同組合の若手・中堅職員 26 人が参加しました。今年度は、「生産」「環境」「地域のコミュニティ」が抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」をテーマに開催しました。5班に分かれて、生産現場や地域コミュニティ等が抱える課題に対して、協同組合が連携して解決できることについて考え、10月から2月にかけて打ち合わせを重ねて実践活動を行いました。



第3回カレッジで実践活動を報告

2月12日に最終回となる第3回カレッジを開催し、各班が実践した活動について報告し、報告を聞いた他の班は、良いと感じた点やアドバイス等をフィードバックしました。また、報告にあたり、実践活動がSDGsの17の目標の内、どの目標に該当するかを発表しました。どの班も課題をしっかりと見据え、事前に関係部局と調整した上で実践に臨んでおり、地に足の着いたレベルの高い実践報告会になりました。

全3回のカレッジと実践を通じて、次世代を担う協同組合の職員同士が顔の見える関係をつくり、協同組合の意義や役割について学びました。参加者からは、「協同組合間協同の可能性を感じた」「社会的課題を解決するために、日々できることがないかを意識して業務にあたりたい」等の前向きな感想が寄せられました。

## 1班 協同組合合同インターンシップ

1月19日、1月26日 コープこうべ住吉事務所 24人参加

就職先として協同組合を選択する学生を増やし、就職後のミスマッチの解消と定着率の向上を目指して、就活生向けに協同組合合同インターンシップを開きました。

SDGsの項目に沿って身近な課題とその解決策について話し合うグループワークを行った後、各協同組合の取り組みを紹介しました。



カードゲームで楽しくSDGsを理解

## 2班 協同組合版エコファーム

11月9日 コープこうべエコファーム 野菜くずの堆肥化  
1月30日 コープこうべエコファーム ほうれんそうの収穫

各協同組合から生じる廃棄物等の有効利用に向けて、野菜くずの堆肥化と色落ち海苔を施肥したほうれんそうの試験栽培を行いました。

色落ち海苔を施肥したほうれんそうは、食味が良い、雑草が生えにくい、虫がつきにくいなどの効果がみられました。



色落ち海苔を施肥したほうれんそうの収穫

## 3班 未利用魚の活用

1月13日 パスカルさんだ 100パック試食販売

漁業の活性化と魚食文化の継承を目指して、未利用魚である「ガンゾウビラメ」を干した「干カレイ」をJA農産物直売所パスカルさんだで試食販売しました。

試食・購入された方からは、「昔は食べていた」「懐かしい」「美味しい」などのコメントをいただき、用意していた100パック全て完売しました。



パスカルさんだで干カレイを試食販売

## 4班 次世代に向けた協同組合の見える化

1月29日 賀川記念館 25人参加

各協同組合の若手職員の働きがい向上させるために協同組合の原点に立ち返り、その価値を再認識するイベントを開きました。

賀川豊彦や生協の成り立ちに関する講演を行った後、各協同組合の取り組み紹介と昼食交流会を行いました。



各協同組合の食材を使用した昼食交流会

## 5班 移動店舗を活用した移動式セミナー

2月7日 押部谷集会所 65人参加

地域のつながりづくりや世代間コミュニケーションの活発化を目指して、コープこうべの移動店舗の停留所である押部谷集会所でイベントを開きました。

コープ商品等の試食会を行った後、詐欺被害にあわないためのマネートラブルに関するセミナーを行いました。



移動店舗の傍でコープ商品等の試食会

# 2018年度 兵庫JCC協同組合研究・交流会を開く

11月6日、協同組合研究・交流会を開き、各協同組合の組合員や役員ら33人が参加しました。

生協が当番となる今回は、テーマを「ネクスト100」とし、生協の最新の取り組みを視察しました。

最初に訪れた、コープこうべのサービス付高齢者向け住宅「コープは～とらんどハイム本山」は、デイサービス機能に加え、保育園やろっこう医療生協経営のクリニックも併設する等、地域とともに、こころ豊かに安心して過ごせる住まいづくりのための様々な配慮や工夫がなされていました。



コープは～とらんどハイム本山

次に訪れた甲南大学の「iCommons (アイコモンズ)」は、学生や教職員、さらには地域社会、企業の方々などが気軽に訪れ、融合し、そこから無限の可能性が広がる複合施設を目指しています。4階建のこの施設は、延べ床面積約1万4千平方メートルで、レストランやプロジェクトルーム、スタジオなどに加え、アトリエ、フィットネスルーム、キッチン、ブックカフェなども設置されていました。参加者からは、「私たちの大学時代とは比較できないほど素敵」「恵まれた環境で学べてうらやましい」等の感想が寄せられました。



甲南大学「iCommons (アイコモンズ)」

3か所目は、コープこうべの鳴尾浜配送センター内に2018年に移設稼働した阪神友愛

食品(株)です。1987年、コープこうべと兵庫県、阪神7市1町からなる第3セクター方式で開設した同社は、重度障害者多数雇用事業所に能力開発センターが併設されています。コープ共済リーフレットの封入作業、農産商品の袋詰め作業、回収された段ボールの圧縮作業、ペットボトルのリサイクル作業など、障がいを抱えながらも真剣に、いきいきと作業している姿に感銘を受けました。



阪神友愛食品(株)

最後に、兵庫県立尼崎の森中央緑地を訪問。尼崎臨海地域は、近年、工場等の遊休地が発生するなど地域の活力が低下し、その再生が急務になっています。この地域を魅力と活力あるまちに再生しようという一大プロジェクトが、この「尼崎の森21世紀構想」です。コープこうべも4年前からこの活動に参加し、組合員と一緒に「コープ活動の森」づくりに取り組んでいます。参加者全員でクリノキとカキノキを植樹した後、在来種にこだわった森づくりの説明を受けました。



尼崎の森中央緑地

参加者からは、「今後の協同組合の役割の大きな要素となる事業活動を見学することができた」「充実の一日でした。それぞれの訪問先で学びがあり良い刺激になりました」などの感想が寄せられ、協同組合間の相互理解が深まりました。

# 兵庫JCC2019年度活動計画

目的：協同組合の理念学習や協同組合間協同の推進に向け、取り組みをすすめる。

企画名	主な活動内容	規模	実施日
第 97 回 国際協同組合デー・ 兵庫県記念大会	テーマ：「協同の力で未来を拓く」 講演：「私たちの選択が未来を変える ～エシカル消費のすすめ～」 講師：末吉 里花 氏	約350名	7月5日
虹の仲間づくりカレッジ	2015年度から開催している「虹の仲間づくりカレッジ」の内容を一層充実させ、若手職員を中心に協同組合人としての連帯感醸成と社会的課題解決に向けた実践とともに体験できるものにする。また、活動の「見える化」をはかる。	約25名	①7月11日 ～7月12日 ②9月6日 ③2月13日
虹の仲間で森づくり・ 海づくり	兵庫県漁連とコープこうべが取り組んでいる森づくりや海づくり活動に兵庫JCCの参加を呼びかける。	約100名	海づくり 5月18日 森づくり 未定
協同組合研究・交流会	豊かな暮らしを支える生産・流通・消費の相互理解を深め、生産者と消費者の交流に取り組む。生協、農協、漁協、森林組合の各団体が、互いの事業と活動を学習・共有化して、今後のさらなる協同・連携を促進する。	約40名	実施日未定
ひょうごまるごと 健康チャレンジ2019	2018年度から、取り組みはじめた「ひょうごまるごと健康チャレンジ」を生協・農協・漁協・森林組合が合同で、認知度の向上や参加者拡大に取り組む。すべての人の共通課題である「健康づくり」を組合員はもちろん、兵庫県民の心と体の健康づくりに貢献する取り組みにする。	—	2019年秋～ 年内を予定
PHD 運動への協力	各協同組合のなかでPHD運動を紹介する取り組みをすすめる。	—	—

## PHD の団体概要

### 【設立の経緯】

1962年からネパールを中心に約20年間海外で医療活動に従事してきた岩村昇医師が、自らの活動経緯と反省をふまえ、「物」「金」中心の一時的援助を超えた草の根レベルの人材交流・育成を提唱して1981年6月に設立。

### 【組織の目的】

1. アジア・南太平洋地域からの研修生の招聘、研修後のフォローアップを通して、草の根の人々による自立した村づくりと生活向上に協力すること。
2. 日本人々もアジア、南太平洋地域の人々との交流を通して学び、そこから毎日の生活を問い直し、平和（Peace）と健康（Health）を担う人材を育成（Human Development）し、「ともに生きる」社会をめざすこと。

# 今 協同組合では —各協同組合からの報告—

## 生協から

### 2018年度 兵庫県生協大会を開く

10月4日、兵庫県民会館において、2018年度 兵庫県生協大会を開催し、会員生協の組合員、役員や職員など285人が集いました。



木田 克也 会長理事

第一部 記念式典は、姫路市民共済生協 大塚泰生さんの司会で始まり、主催者を代表して兵庫県生協連 木田克也 会長理事が挨拶。引き続き、ご来賓の兵庫県副知事 金澤和夫様よりご挨拶をいただきました。続いて行われた表彰式では、生協法施行70周年を記念して兵庫県知事表彰が3生協に贈られました。次に長年にわたり生協の発展に寄与された3人の会員生協役員に生協功労者表彰として「兵庫県知事感謝」が贈られました。その後神戸市市民参画推進局 部長 丹本陽様、兵庫県議会議長 松本隆弘様より、それぞれ生協への期待がこめられたご祝辞をいただきました。また、生協業務に精励した21人の役員・職員に「兵庫県生活協同組合連合会会長表彰」が贈られ、会場からも大きな拍手が送られました。続いて7月の西日本豪雨による被災地支援として日本生活協同組合連合会から兵庫県内の被災者への義援金贈呈式があり木田克也会長理事から橋本正人県民生活局長へ目録が贈られ、橋本県民生活局長から木田会長理事へ感謝状が渡されました。

第二部は、「食べることで歩くことが出来れば人生は幸せ～二つのソクイク（息育・足育）で元気生活～」と題して、福岡県のみらいクリニック院長 今井一彰氏の講演がありました。「あいうべ体操・ゆびのぼ体操」をユーモアを交えながらわかりやすく説明いただき会場は大いに盛り上がりました。また、会員医療生協による「健康チェック」や「(公財)兵庫県健康財団」「コープ共済センター」による健康づくりと疾病予防の取り組みと「ひょうごまるごと健康チャレンジ」申込みの受付を行いました。ロビーでは「フェニックス共済」「兵庫労働共済生活協同組合」の共済紹介も行われ、多くの参加者でにぎわいました。



みらいクリニック 今井一彰 院長

## JA(農協)から

### 万一の農作業事故に備えるために労災保険特別加入団体を設立

JA兵庫中央会は、4月1日、県内農業者が万一の農作業事故に備えて労災に加入できる環境を整備するために、労災保険特別加入団体を設立しました。労災保険は、本来、労働者を補償する仕組みですが、農業者も一定の要件のもとに特別加入という形で任意加入でき、その窓口となり所定の事務を行うのが労災保険特別加入団体です。

農業者の高齢化に伴い農業就業人口に占める農作業事故の発生件数が増加している一方で、労災保険特別加入団体はすべての地域に設置されているわけではなく、カバーされていない地域が存在していました。そこで、希望する全ての農業者が労災に加入できるようにするために同団体を設立しました。農業者は、労災に加入することで、万一の際に、怪我や病気の治療費や休業補償を受け取ることができ、安心して農業に従事できるようになります。

また、4月1日、労災保険特別加入団体とあわせて、JAグループ兵庫農作業安全推進協議会を設置し、農作業事故を発生しないようにするための安全推進を行っています。今後、JAグループ兵庫一丸となって、安全な農作業の推進と労災への加入促進を継続して進めていきます。



各JAが労災の加入促進に向けた説明会を開く

# JF(漁協)から

## ～イカナゴシーズン到来～



出前くぎ煮教室

JF 兵庫漁連では、漁業者で組織する「兵庫県イカナゴ謝恩実行委員会」と連携し、くぎ煮教室を毎年行っています。今年は県内の19校の小中学校の家庭科の授業で30講座開催し、参加した児童は伝統的な兵庫県の食文化を体験しました。

今年のイカナゴ(シンコ)漁について、漁業者はシンコの体長を少しでも大きくすることで資源量確保を図り、昨年より7日遅い3月5日に解禁しました。少しでも旬の味覚を家庭へ届けたいとの思いで出漁したところシンコは大きく育っていましたが、大阪湾では漁獲量が芳しくなく、わずか3日間で終漁となりました。

このようなイカナゴを含め漁獲量が減少している要因として、瀬戸内海では海の栄養不足が大きな要因の一つと考えられています。JF 兵庫漁連では瀬戸内海の現状を広く皆様にご存知いただくため、ひょうごおさかなファンクラブ「SEAT-CLUB」のホームページにて「瀬戸内海を豊かな海に!～痩せた海、瀬戸内海への警告

～」を掲載して理解を求めておりますので是非ご覧ください。

伝統的な魚食文化が継承されていくよう、来年は豊漁に恵まれ、より多くのイカナゴが食卓に並ぶことを願うばかりです。

「SEAT-CLUB」  
ホームページ掲載

# JForest(森林組合)から

## 兵庫県林業会館が完成

昨年3月から耐震性と耐火性に優れた木製新建材「CLT」を使って建て替えを進めていた兵庫県林業会館が1月15日に完成しました。新技術「CLT+鉄骨ハイブリッド構造」の地上5階建てで、1階のみ鉄筋コンクリート造となっています。



竣工式

1月23日には竣工式が行われ、兵庫県森林組合連合会 石堂会長、兵庫県木材業協同組合連合会 谷口会長をはじめ、来賓の方々が出席し神事を斎行しました。

また、2月1日と4日には内覧会や見学会が行われ、建設業関係者など約390人に参加いただきました。想定を超える規模の参加で関心の高さがうかがえました。

兵庫県森林組合連合会をはじめ計13の林業関係団体等が入居するほか、ガラス張りの1階にはCLTや森林林業、木材産業などの情報を紹介するコーナーやCLTを活用した建築物を解説するパネルをはじめ、ヒノキやクスノキなど6樹種を使った丸イス、木製遊具や木の玉プールなどを展示しています。今後はテーマを変えながら森林再生や兵庫県産材の活用策などの情報を発信していく予定です。1階の展示スペースは4月頃から一般開放を行い来客者に自由に見学していただけるスペースとしています。

林業会館の新たな試みが全国に普及していくことを期待しています。



兵庫県林業会館

## 協同組合運動 に生きる

## 山林の課題

兵庫県森林組合連合会 地籍調査室 技師 時本 惇一



現在、所有者がわからない山林が増加しています。国土交通省によると山林所有者の20人に1人程度は、所在がつかめない所有者であると見込まれています。また、多くの地域で土地の境界を明確にする地籍調査が行われていません。特に山村部については、進捗率が低く兵庫県では平成28年度末時点で16%であり、境界が不明瞭な山林がまだまだ多く存在しています。

山林所有者が不明や境界が不明瞭である場合、森林施業に取り組むことができず、林業の停滞の一因となっています。また、近年、豪雨や地震による山崩れが増加していますが、所有者がわからない場合は復旧工事が遅れ、更なる土砂災害など二次災害の発生が懸念されます。

私は、兵庫県森林組合連合会で2017年から働き始め、山林を調査し、境界を明確にする地籍調査などを担当しています。

実際に業務を行っている地域でも「山林を所有していることは知っているが、どこにあるのかわからない」、「所有者の所在がつかめない」という問題が多数存在しています。

しかし、地域には山林の境界に詳しい方が少なくなっていますが、いらっしゃいます。住民間で日頃からコミュニケーションがとれている地域については、情報を共有し地域で境界を把握されているケースがあります。また、現在所有者が入院していることや都市部に移住していることなど、どのような状況にあるのかを把握されています。そのような地域では境界の確定作業が比較的円滑に進みます。さらに、倒木や土砂崩れなどの災害についても地域で把握されており、対応が早い印象があります。住民間でコミュニケーションが良くとれている地域は、地

域の問題解決力が高いのではないかと思います。このような地域を増やすことが山林の荒廃を防ぐ一つの方法ではないかと考えています。

山林を熟知している所有者からは「昔は地域住民みんなで植栽や下刈りをしていた」という話をよく聞きます。そういう時代では山林での作業が地域のつながりを深めていたのだと思います。

今日、少子高齢化や都市部への人口流出などにより兵庫県では10市町が過疎地域となり、過疎地域の全面積の8割が山林となっています。このような地域でコミュニティの希薄化が進行していくことは、山林の衰退につながる可能性があります。

山林を整備し、適切に管理することは所有者だけでは難しく、地域の協力なしには実施することができません。私の仕事は林業を活性化させるための取り組みであることはもちろんですが、同時に地域のつながりを強化するきっかけになると考えています。そういった意味でも境界の不明瞭な山林を調査することは重要な役割であると感じています。

また、私は兵庫JCCの仕事に携わっていることで、他の協同組合がどのように地域と関わっているのかを知ることができました。その中で森林整備や森づくりといった山林と関わる活動を他の協同組合も実施していることに驚きました。山林が抱える課題は所有者や森林組合だけの課題ではなく、社会全体の課題であることを実感しました。山林の課題を解決することは、林業の活性化や生活環境の改善だけでなく、地域課題の解決にもつながるのではないかと思います。山林が抱えている課題は簡単に解決できるものではありませんが、一つでも多く解決できるよう森林組合の一員として尽力していきたいと考えています。